

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓五綱領（剛健・質実・自重・自治・至誠）の下、豊かな個性の伸張と人間性の尊重、陶冶に努めることにより、高い志をもち、国家・社会に貢献する気概に満ち、国際人として様々な分野で活躍するリーダーとなる人材を育成するため、特に次の能力を育むことをめざして全人格的な教育を行う。1920年に設立され百年を越え維持されてきた校風を大切にしてい

○高い知性、豊かな人間性、健やかな心身と強い意志をもって未来に生きる総合的な人間力

○高い基礎学力と自学自習力を有し、自ら課題を発見し解決していく能力

○自他を尊重し理解する能力に秀でるとともに、他者と協働する能力や自らの考えを世界に発信できるコミュニケーション能力

2 中期的目標 令和6年度は、GLHS校再指定5期1年め、SSH校指定3期5年めであり、取組みの一層の充実を図る。

1 高い知性と確かな学力の育成

- (1)「授業で勝負」。質の高い授業と生徒の積極的な授業参加により高い知性と確かな学力を育成する。アクティブラーニングの視点からの授業の改善充実を進めることで生徒の学習意欲を高める。授業中心の「予習→授業→復習」という毎日の学習サイクルを確立し、基礎学力の定着と自学自習力の向上、実践力の育成を図るためにきめ細かい指導を行う。
- ア 生徒による授業評価を活用しながら、研究授業、相互の授業参観を行って授業の改善充実に努め、生徒の授業理解度及び授業満足度の向上を図る。
- イ 主体的・協働的に学ぶ姿勢を育成するための学習・指導方法等を充実させる。
- ウ 生徒自身ができるようになる授業を行い実践力を養う。
- ※生徒による授業アンケートの項目8と9の肯定率を、3学年平均で85%以上(R3：91.1%、R4：89.7%、R5：91.2%)を維持する。
- (2)「言葉」と「体験」をキーワードに多様な学習の機会を開設し、生徒の自ら学び、考え、判断し、行動する力を育成する。
- ア グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）事業やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業等を活用し、生徒の英語活用能力、課題発見能力、論理的思考力、分析力、プレゼンテーション能力などの向上を図る。
- イ 教科・科目の授業や探究活動においてICTを積極的に活用し、情報リテラシー（収集、選択、活用、編集、発信する能力）の向上を図る。
- ※4技能習得の基礎固め及び動機づけのため、78期生については2年修了までに英検2級の取得を、79期生についてはTOEFL Juniorで英語活用能力の伸長をめざす。

2 高い志の育成と国公立大学への進学実績の向上

- (1)3年間を見通した進路指導によって高い志と明確な目的意識を育成し、生徒の興味・適性・個性に応じた進路選択を支援する。また、生徒の進路希望を実現するため、授業・講習等により学力向上を図る。
- ア 進路HRを中心に計画的な指導と情報提供に努め、主体的な進路実現を支援する。
- イ 探究活動やSSH事業を通じて興味関心を深く掘り下げの中で進路を考える機会を増やす。
- ウ 1年次から高い目標をもたせ、京・阪・神大をはじめとする国公立大学を目標とする指導を充実する。
- エ 授業に加えて、必要に応じて、進路指導部が中心となって各学年で計画的な講習を実施し、学力の向上を図る。
- ※京・阪・神大をはじめとする国公立大学への進学者数を現役で125名以上（R3：157人、R4：145人、R5：122人、現役・一浪で200名以上(R3：205人、R4：185人、R5：180人)をめざす。

3 豊かな人間関係を醸成する行事・部活動の振興と生徒指導の充実

- (1)文理学科としての学校行事と部活動の充実、学校内外の体験活動を通じて豊かな人間関係と自主性、自律性を育て、リーダーシップを育成する。
- ア 生徒実行委員会による学校行事の運営を進める。
- イ 自主性を尊重した部活動の運営を推進するとともに、学習と部活動の両立を図る。
- ウ 文化系部活動振興の一環として、科学系部活動を統合する組織により、探究活動の深化・発展を図る。
- ※生徒の部活動に対する満足度85%以上（R3：86%、R4：87%、R5：85%）を維持する。
- (2)全教職員による生徒指導によって規範意識やマナーの向上を図り、よりレベルの高い「規律ある進学校」をめざす。
- ア 挨拶、遅刻、規律ある服装・頭髮、交通ルール の遵守等の指導を充実する。
- ※遅刻数は1,500以下（R3：1,586人、R4：1,236人、R5：1,661人）をめざす。
- (3)体験を重視した人権教育を通じて人権感覚を育て、人権問題の解決に向けた態度の育成を図る。
- ア フィールドワークや当事者との交流の機会を充実する。
- (4)配慮を要する生徒へのきめ細かな指導を行い、特に不登校の予防と不登校生徒へのケアに努める。
- ア 教育相談室を中心に、配慮を要する生徒の情報を迅速に収集して関係教職員が共有するとともに、スクールカウンセラーや専門機関との緊密な連携に努める。

4 健全な職場環境、安全安心な教育環境の確立

- (1)学校の教育課題に対して全員で取り組む職員集団の確立
- ア 職員同士の円滑なコミュニケーションの促進、ハラスメント・体罰等の防止。
- ※教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」90%（R3：91%、R4：92%、R5：96%）、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」80%（R3：79%、R4：89%、R5：89%）
- イ 業務内容の精選、平準化、効率化。
- ※時間外勤務月間80時間を越える教職員の延べ数の減少（R3：14人、R4：46人、R5：28人）、ストレスチェック職場環境評価の改善（R3：109、R4：95、R5：90）。
- (2)安全安心な教育環境の確立
- ア 経年劣化等による設備等の機能回復を図る。学校施設、物品等の機能回復と充実により教育環境を整える。
- ※不良個所の減少。

【学校教育自己診断における結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月 実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒】 1. 学校の楽しさ 89←88←88% (○) 2. 生活指導への肯定感 86←83←85% (○) 3. 進路指導への肯定感 95←94←93% (◎) 4. いじめ対応への肯定感 93←94←93% (◎) 5. 教育相談への肯定感 75←69←66% (○) 6. 人権・規範に関する取組みへの肯定感 90←90←91% (◎) 7. 学校行事の満足度 96←92←97% (◎) 8. 1人1台端末の活用 85←82←78% (○) 9. 授業に対する満足度 81←77←78% (○) 10. 印象に残る授業・授業への集中度 87←85←86% (○) 11. バランスの取れた高校生活を送っている 79←74←76% (○) 12. 生活リズムがとれた生活を送っている 75←76←77% (○) 13. 生徒の意見が学校運営に反映されている 80←68←77% (○) 14. 生野高校を後輩に推薦したい 76←69←77% (○) 15. 部活動に対する満足度 85←85←87% (○) 16. 家庭連絡 81←81←85% (○) ※「生徒の意見が反映された学校運営」と「生野高校を後輩に推薦したい」の評価は改善傾向にある。 【保護者】 1. 学校の楽しさ 82←87←82% (△) 2. 授業の分かりやすさと楽しさ 70←74←71% (△) 3. 生徒指導への共感 86←87←88% (○) 4. 進路指導の適切さ 88←89←92% (○) 5. いじめなどへの対応 89←90←88% (○) 6. 人権・規範意識の育成 93←91←92% (◎) 7. 情報提供の努力 93←93←92% (◎) 8. 参観や行事への参加 90←89←84% (◎) 9. 部活動指導への満足度 76←81←76% (△) ※多くの項目で維持できている。 ※授業の進め方や進路の指導方針については、進度や目標の設定の説明をより懇切丁寧に行うことを徹底し、そのうえで自走できる生徒の育成に努めていることを周知する。部活動の指導方針についても各部の方針を理解してもらうことを今後も徹底していく。 ※施設設備の老朽化に伴う不備についてのご指摘を真摯に受け止め、教育長へ改善要望を行っていく。 【教職員】 1. 日常的に教職員で話し合っている 94←96←92% (◎) 2. 評価を次年度の計画に生かしている 86←89←89% (○) 3. 生徒理解、生徒支援を重視した生徒指導 89←87←81% (○) 4. きめ細かい進路指導 94←91←92% (◎) 5. いじめ対応 98←98←91% (◎) 6. 教育相談 90←84←87% (○) 7. 学校行事 94←82←91% (◎) 8. 情報の生徒・保護者や地域への周知 98←100←92% (◎) 9. 働き方改革を推進 71←73←57% (○) 10. 府のルールや内規の理解 95←100←96% (○) 11. 人権に配慮した学校運営 95←98←92←90% (○) ※依然として働き方改革の推進に大きな課題がある。次年度も特定の人への業務集中を避け、業務の見える化と平準化を図り、相互補完できる組織づくりをさらに進めたい。	第1回：令和6年7月10日（水）15:30～17:00 ・R6学校経営計画案及びR5学校評価案 → 承認 ・GLHSの取組 ・SSHの取組 ・教科書選定作業の経過報告 ・R6入試結果と今後の在り方についての協議 第2回：令和6年11月6日（水）15:00～17:20 ・R6学校経営計画の進捗状況報告 ・GLHS事業の進捗状況報告 ・SSH事業の進捗状況報告 ・第1回授業アンケート結果（7月実施）の報告 ・その他 授業見学の感想 制服改定の検討に入ることの了承 第3回：令和7年3月8日（土） ・R7学校経営計画案及びR6学校評価案 ・各種事業の総括 GLHS（独自、10校合同）事業の取組 SSH事業（第Ⅲ期まとめ、第Ⅳ期申請）の取組と今後の展開 授業改善の取組をはじめ、生徒の資質向上に向けた多くの事業を校内外で展開していることをもっとアピールすべきとの提言をいただいた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R 5 年度値]	自己評価
1 高い知性と確かな学力の育成	(1) 授業の充実改善と基礎学力の定着、自学自習力の育成 ア 授業評価の活用、研究授業、相互授業見学による授業の改善充実。	(1) ア・授業アンケートの結果をもとに教科で対策を協議する。 ・各教科で年間最低 1 回の研究授業を実施する。 ・全教員が年間最低 2 回の授業参観を行う。	(1) ア・授業評価における授業理解度（授業アンケート質問 9 の肯定率） 1 年 90%以上 [92%] 2 年 90%以上 [88%] 3 年 90%以上 [96%] ・自己診断（生徒用）の「印象に残る授業が展開され、集中して授業に取り組んでいる」80%以上 [85%]	(1) ア．授業理解度 1 年： 92% 2 年： 93% 3 年： 91% (○) ・集中して授業に取り組んでいる 85.3% (○)
	イ 主体的・協働的に学ぶ姿勢の育成。	イ・生徒に印象に残る授業を展開し、授業集中力を高める。 ・定期的に学習時間等の実態調査を行い、家庭学習の時間等を把握する。	イ・授業アンケート項目 8・9 の肯定率を 3 学年平均で 85%以上 [91%、92%] ・平日の自学自習時間、1・2 年とも前期 90 分以上、2 年後期 120 分以上 [前期：1 年 103 分、2 年 72 分、後期：1 年 72 分、2 年 89 分]	イ．授業アンケート 8・9 平均肯定率 91% (○) 平日自学自習時間 前期：1 年 66 分、2 年 72 分 後期：1 年 97 分、2 年 109 分 (◎)
	ウ 実践力の育成。	ウ・主体的・協働的に学ぶ姿勢を育成するための学習・指導方法等を研究する。 ・1・2 年国語・数学で「生野ベーシックテスト」を実施、1・2 年英語で新たに TOEFL junior による学力測定を実施。	ウ・自己診断（生徒用）の「現在行われている授業に満足し勉強することが楽しいと思える」1・2 年 80%以上 [1 年 78%、2 年 70%] ・「生野ベーシックテスト」は再テスト受験者数の削減[1 年国語 240 名・数学 127 名、2 年国語 225 名・数学 225 名]、TOEFL junior は初年度のため指標については結果を見て検討[－]。	ウ．授業満足度（1・2 年平均） 74%（1 年 78%、2 年 70%）(△) 生野ベーシックテスト再テスト受験者数 (○) 1 年国語 212 名 数学 142 名 2 年国語 182 名 数学 188 名 TOEFL Junior は 1 年入学時と 2 年後半に実施済み。次年度に同一学年の伸長を測定する。
	(2) 自ら学び、考え、判断し、行動する力の育成 ア GLHS 事業や SSH 事業の活用	(2) ア・「探究」の校内発表会を実施し、校外発表会に参加する。その際、SSH の発表では、英語による発表を奨励し、海外科学研修で発表を行う。 ・SSH 校外研修、海外語学研修、海外科学研修、英検対策講座等を実施する。 ・オーストラリア FCAC との相互交流の準備をする。 ・英検、漢検の受験を奨励する。	(2) ア・探究活動に関する事後の満足度 95% [92%] ・校内短期留学満足度 100% [100%] ・SSH 海外研修満足度 100% [100%] ・英語検定 2 年生 2 級以上取得率 50% [56.6%]	(2) ア．探究活動満足度 96% (○) 校内短期留学満足度 100% (○) SSH 海外研修満足度 100% (○) 2 年英検 2 級取得率 ー% ※TOEFL Junior に変更
2 高い志の育成と国公立大学への進学実績の向上	(1) 高い志と明確な目的意識の育成、計画的な講習による進路希望の実現 ア 計画的な指導と情報提供による主体的な進路実現の支援	(1) ア・分掌と学年が連携して進路 HR、一日総合大学、大学見学会等を実施する。また、社会の第一線で活躍する先輩等の講演会を実施する。	(1) ア・大阪大学見学会の満足度 95% 以上 [96.9%] ・オープンキャンパスレポート提出 100% [100%]	(1) ア．阪大見学会満足度 91% (△) レポート提出 100% (○)
	イ 探究活動や SSH 事業による興味関心の深化	イ・生徒の興味関心に応じたテーマの設定、放課後の活動をサポートする。	イ・探究活動や SSH 事業の活動を通して進路について考える機会が増えた割合 80% 以上 [95%]	イ．進路について考える機会増 90% (○)
	ウ 京・阪・神大等の国公立大学をめざした指導	ウ・高い目標を持ち最後まで諦めない指導を継続する。 ・センター試験対策を充実する（授業の改善充実と 3 年講習を 5 教科で実施）	ウ・共通テスト受験者 90%以上維持 (91.3%) ・国公立大学進学率（現役・一浪で）50% 以上[75 期生現浪 51%、76 期生現 35.6%]	ウ．共通テスト受験者率 92.6% (○) 国公立大学進学率（現・浪） (現役 45%、現・浪 45%) 45% (△)
	エ 自主学習の質と量をかさ上げする取り組みの実施	エ・自学自習力の向上をめざし自主学習の時間と内容を調査・分析、課題解決に努める。 ・土曜学習日を年間 10 回以上設定し、生徒の自学自習力の育成と既習内容の定着を図る。	エ・各定期考査前に 1 週間の調査を行い結果分析、課題を把握し改善に努める。[実施] ・「土曜学習日は自学自習力の育成や既習内容の定着に役立っている」生徒の割合 80%以上[－]	エ．自学自習習慣の確立確認 「土曜学習日」の有効活用度 86.6% (○)

府立生野高等学校

3	豊かな人間関係を醸成する行事・部活動の振興と生徒指導の充実	（１）豊かな人間関係と自主性・自律性・リーダーシップの育成 ア 生徒実行委員会による学校行事運営 イ 自主性を尊重した部活動の推進、学習と部活動の両立 ウ 科学系部活動のさらなる活性化 （２）「規律ある進学校」の実現 ア 規範意識・マナーの向上 （３）人権教育の充実 ア 体験重視の人権教育 （４）配慮を要する生徒へのきめ細かな指導 ア 情報の迅速な把握と共有化、関係機関との連携 イ 欠席生徒への情報共有及び対策	（１） ア・体育祭、文化祭等の行事を極力生徒自身に企画・運営させる。 ・リーダー講習会を実施する。 ・他校執行部との交流、ボランティア活動など、学校外への働きかけを意欲的に行う。 イ・顧問の指導の下、生徒自身に活動のあり方を考えさせることにより、自主性と自律性の向上をめざす。 ・「生活のスタンダード」を踏まえ、学習と部活動の両立を図る。 ウ・既存の部と同好会を束ねる「科学系クラブ連合」により探究活動の深化・発展を図る。 （２） ア・全教員による挨拶、遅刻、規律ある服装・頭髪、交通ルール遵守等の指導の充実。 ・生徒の地域活動（清掃活動等）を推進する。 （３） ア・フィールドワーク、当事者との交流機会の充実 （４） ア・年３回の欠席調査や学年会議等で情報を把握、ケース会議を随時開催して情報の共有化を図り、指導方法を検討する。 ・保護者の協力を得て、スクールカウンセラー、府立高等学校適応指導教室や専門機関と緊密に連携して指導にあたる。 ・教育相談室の整備を図る。	（１） ア・各行事の満足度・達成度 90%以上〔体育祭 92.8%、文化祭 98.3%〕 イ・部活動に対する満足度 80%以上〔85%〕 ・自己診断（生徒用）の「学習・行事・部活動のそれぞれにバランスよく取り組めている」 75%〔74%〕 ウ・科学系部活動参加者による発表・表彰件数前年度並み〔エントリー50 件、入賞 3 件〕 ・科学系部活動入部者数前年並み維持〔72 人〕 （２） ア・遅刻数 1500 回以下〔1, 661 回〕 （３） ア・３学年人権研修満足度いずれも 90%以上〔 1 年 アンガーマネジメント講習 96.4%、1 年同和問題 98.8%、2 年在日韓国朝鮮人問題 99.4%、3 年障がい者問題 100%〕 （４） ア・不登校生については、教育相談委員会を中心に、保健室やスクールカウンセラーと連携し、学校全体で支援する。	（１） ア．行事満足度 <table><tr><td>体育祭</td><td>98.7%</td><td></td></tr><tr><td>文化祭</td><td>99.1%</td><td>(◎)</td></tr></table> イ．部活動満足度 85.3% (○) 両立満足度 74.3% (△) ウ．科学系部活動参加者による発表・表彰件数 エントリー数 48 件、入賞 4 件 (○) 科学系部活動加入者数 58 人 (△) （２） ア．遅刻数 1,690 回 (△) （３） ア．人権研修満足度 <table><tr><td>1 年</td><td>98.2%</td><td></td></tr><tr><td>2 年</td><td>98.8%</td><td></td></tr><tr><td>3 年</td><td>96.8%</td><td>(○)</td></tr></table> （４） ア．教育相談委員会を毎月定期開催し、情報の共有と、SC や外部機関への早い時期での引継ぎを行った。(○) イ．個別の履修委員会を立ち上げ、長欠生徒の学力保障の体制を確立	体育祭	98.7%		文化祭	99.1%	(◎)	1 年	98.2%		2 年	98.8%		3 年	96.8%	(○)
体育祭	98.7%																			
文化祭	99.1%	(◎)																		
1 年	98.2%																			
2 年	98.8%																			
3 年	96.8%	(○)																		
4	健全な職場環境、安全安心な教育環境の確立	（１）全員で取り組む職員集団の確立 ア コミュニケーションの促進、ハラスメント・体罰等の防止 イ 業務内容の精選、平準化、効率化 （２）安全安心な教育環境の確立 ア 施設設備の機能回復と充実	（１） ア・首席・主任・部長を中心としたミドルアップ・ダウンの一層活性化、分掌主導の学校運営の推進。 ・教職員が働きやすい職場環境改善に努める。 ・学校全体で経験の少ない教職員を育てる体制づくりを進める。 イ・業務内容の精選、平準化、効率化。 ・教職員全体で業務に当たる体制づくりを進める。 ・部活動方針の遵守に基づく部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 （２）安全安心な教育環境の確立 ア 経年劣化等による設備等の機能回復を図る。学校施設、物品等の機能回復と充実により教育環境を整える。	（１） ア・教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」 90%[96%] ・「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 80%[89%] イ・時間外勤務月間 80 時間を越える教職員の延べ数の減少[28 人] ・ストレスチェック職場環境評価の維持 [90] ・教職員一人あたりの超過勤務時間数で前年度より 5 % の削減をめざす。 [31. 2h] （２） ア・不良箇所の減少	（１） ア．日常的な話し合い肯定度 93.7% (○) 自己点検肯定度 85.7% (○) イ．時間外勤務月 80h 超の教職員数 延べ 18 人 (○) ストレスチェック職場総合健康リスク値 87 (昨年度比－ 3) (○) 超過勤務時間 43.1h ※昨年度から算出方法が変更になり、R5 新データでは 45.5h となる。 43.1/45.5=0.947 5 %縮減達成している。(△) （２） ア．冬季の火災報知機の誤作動、調理実習室の給湯器故障による使用不可、地中の水道管破裂による大量漏水等、大規模な改善が今後必要。(△)															